

学習院大学図書館

東京の中心にあるにもかかわらず、深い緑に覆われた目白のキャンパス。その東側に位置する古い歴史を持った図書館は、さまざまな貴重な書物が収蔵されている。そして、それらはWWWでどこからでも自由に蔵書を検索できるシステムが稼働している。今回は、図書館の検索システムなどを構築した中村丈夫氏にお話をうかがった。



URL <http://www.glim.gakushuin.ac.jp/>

学習院大学図書館
プロフィール

所在地
東京都豊島区目白1丁目5番1号
沿革

学習院の名前は、1847年に京都の公家のための教育機関として開講されたのがその始まり。1877年に東京に場所を移し、私立の華族学校として設立され、明治天皇より「学習院」の勅額を賜った。それによって現在の学習院大学が創立された。

図書館のほうも、始まりは1877年にさかのぼるほどの歴史があり、古い和漢書などの貴重図書や資料類など数多くの蔵書がある。

学生数
約9457名（1996年度現在）

ネットワーク環境
学内のネットワーク環境を管理する学習院大学計算機センターから、TRAINに768Kbpsで接続されている。また、学内のさまざまな施設、および幼稚園から小中高部までのすべての施設は光ファイバーケーブルで結ばれており、すべて10Mbpsで接続されている。学内にある約800台のコンピュータがインターネットに接続されている。

学生たちはどのような形でインターネットを利用しているのですか？

まず、希望者は大学計算機センターにアカウントを申請します。入学と同時に全員に自動的に発行されるというわけではないのですが、ここ数年に入学した学生の90%近くがアカウントを申請しています。それは卒業するまで使うことができます。

また、文科系、理科系にかかわらず情報処理教育が用意されているのですが、教室からはみ出してしまうくらい受講希望者がいます。希望した年に受講できずに、次の年に受講する学生もいるくらいです。

そのカリキュラムの中で、電子メールやブラウザの使い方から始めて、図書館の検索システムの使い方などを教えることとなります。

図書館の蔵書がWWWで検索できるようになっていますが、これはいつごろから始まったのですか？

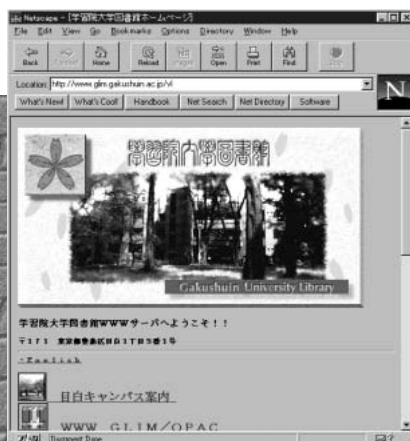
汎用機で構築した検索システムは1989年に導入しました。それが、現在のUNIX系のシステムに移行したのは1994年です。そして、現在の検索システムが本格的に稼働し始めたのは1995年4月からです。

検索システムを学外まで開かれたものにした理由はなんだったのですか？

最初の汎用機を使っていたころは図書館だけの閉じられた検索システムでした。それからUNIX系のシステムを導入したことによって、研究室などの図書館外から検索できるようになりました。



図書館電算室の中村丈夫氏



学習院大学図書館のホームページ
URL <http://www.glim.gakushuin.ac.jp/>

緑に囲まれた図書館。30年前に立てられた。



図書館の中にも端末があり、検索することができる。



1996

昭和24年度以後増加図書 及び分類整理替図書目録

昔ながらの検索方式もまだ健在だ。

1996



大学計算機センターの磯上貞雄さん（右）。中央の黒い柱のようなものが、学内のサーバー。

1996

それが非常に大切なポイントだったので。キャンパス内には、さまざまな学部の研究施設が分散していますから、蔵書の検索にわざわざ図書館まで足を運ぶというのは結構大変だったのです。

その延長で、昨年の11月頃から図書館の案内などをWWWで始めました。そのころからこのWWWで検索ができるようにならないものかということで、富士通さんにシステムの構築を依頼したのです。

これだけいろんな人がパソコンを使うようになり、パソコン自体も普及してきたのだから、WWWでどこからでも自由に検索できるようになるのは非常に理想的なことだと考えたわけです。



現在は蔵書のどれくらいの割合が、データベースに収録されているのですか？

現在、学習院大学では103万冊の蔵書があるのですが、この目白キャンパスの大学図書館には32万冊の蔵書があります。この103万冊のうちデータベースに入っているのは30万冊くらいです。

今後、戦後の蔵書でまだ入力していないものが40万冊ほどあるので、これらを入力していく予定です。89年にシステムを導入した以降に受け入れた蔵書は入力されているのですが、それ以前のもので未入力なのです。それらのデータベース化が課題になっています。

現在、各大学の図書館は一通りの電算化が進んで、過去のデータにさかのぼってデータを入力する時代に入ってきているようです。



検索のためのインデックスだけでなく、書物のコンテンツそのものをデジタル化するような電子図書館などについてはどう考えていますか？

現在、学内で発表された論文などのコンテンツを電子化しようとして入力を行っています。

一般の図書に関しては、著作権に触れる可能性があるのが非常に難しいところです。他の大学でもそのような動きがあるようですが、やはり著作権の問題がひっかかっているようです。

これから出る電子出版物のようなものならいいのですが、過去のものをどう扱うかという問題があります。それを入力するのはまだちょっとできないですね。



仮想図書館というものがあるようですが、これはどんなものなのでしょうか？

現在研究開発中なのですが、VRMLを使ったバーチャル図書館です。富士通さんのほうから開発依頼があって、それは面白そうだったので今年の2月から共同で開発しています。プロトタイプですが、秋ぐらいまでの完成を目指しています。

これは、研究室などにいながら図書館を自由に歩き回り、検索や閲覧ができるというイメージのもので。

たとえば、書架のコーナーにいくとジャンル別に分けられた本棚が並んでいて、そこをクリックすると、ジャンルごとの蔵書が検索できるというようなものです。また掲示板では図書館からのお知らせを読んだり、受け付けでは、質問のメールが送れたり、図書館としての一通りの機能は果たすものになります。

す。将来、どう運用していくかはまだ未定です。



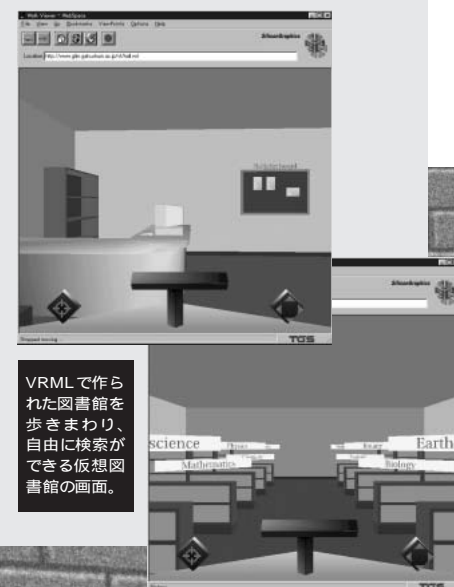
データベースが整備され、仮想図書館が完成したら、次にどのようなものを作っていくとお考えですか？

古い明治以前の貴重な書物を、画像データを含めてデータ化して、検索や閲覧ができるようになるといいですね。

現在、貴重書と呼ばれるものを閲覧するには、手続きをして特別な部屋で閲覧しなくてはなりません。当然、見る側にとっては制約がかなり多いわけです。これをインターネットで見ることができれば、たくさんの方がいつでもどこでも自由に見ることが出来ます。そうなったら多くの学内、学外も含めた研究者にとって非常に役に立つものになるでしょうね。



ありがとうございました。



VRMLで作られた図書館を歩きまわり、自由に検索ができる仮想図書館の画面。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp